



Dr's Interview.1

インプラント治療の有用性と留意点
～歯周病の専門家から～

申 基喆 先生
(しん きてつ)

- 明海大学歯学部附属明海大学病院 病院長
- 明海大学歯学部 口腔生物再生医学講座
歯周病学分野 教授
- 日本歯周病学会 常任理事 専門医 指導医
- 日本歯科保存学会 理事 認定医 指導医
- 日本再生歯科医学会 理事 発起人
- 国際インプラント会議日本部会 (WCOI) 理事
- 日本顎咬合学会 評議員 指導医
- アメリカ歯周病学会 (AAP) 会員

Dr's Interview.2

インプラント治療を長期的な成功に導くための徹底したリスクコントロール

船越 栄次 先生
(ふなこし えいじ)

- 九州歯科大学 臨床教授
- 船越歯科医院 院長
- 日本歯周病学会
指導医認定、常任理事、評議員
- 元日本臨床歯周病学会 理事長

Special Report

インプラントを長く快適に使うために
～定期メンテナンスと日常のケア～

インプラントは適切なケアをおこなうことで、長く快適に使うことができます。歯科医院で受けるプロによるケアと、患者様ご自身でおこなう日常のお手入れで、大切なインプラントとお口の健康を守りましょう。



Vol. 4

インプラントを長持ちさせるポイント

～ 歯周病とインプラントの関係を理解しましょう ～

インプラント治療で噛む機能を回復した後、長く快適に使い続けるために患者さまに理解していただきたい事柄があります。インプラントはむし歯にはかかりませんが、インプラント周囲の歯ぐきや顎の骨は歯周病原菌に感染するリスクがあり、感染が進むとインプラントがグラグラしはじめ、最終的には抜け落ちるといった事態に繋がります。特にインプラント治療前に歯周病にかかっていた患者さまは、発症リスクが高い傾向にあると研究で判明されています。

今回のニュースレターでは、歯周病のスペシャリストであるお二人の歯科医師にインタビューし、インプラント治療を受ける上で知っていただきたいことや、治療後に守っていただきたい感染予防とケア方法についてお聞きしました。

インプラント治療の成功とは、お口の中で長期間に渡りきちんと機能し、患者さまに長く満足していただくことだと考えます。本誌がその一助となれば幸いです。

株式会社ガイドデント 代表取締役社長 石井 貴久

ガイドデントについて

国内唯一の歯科分野における第三者保証機関として、「インプラント 10年保証」および歯科医療における保証サービスを提供。患者様と歯科医療機関の間に立ち、安心した歯科治療選びのパートナーとして、これから治療を受ける方、そしてすでに治療を受けられた方により安心していただける環境を提供して参ります。

「インプラント 10年保証」のサービスが受けられるガイドデント認定歯科医療機関は、全国に 612 施設あります。(2015年1月31現在)

会社概要

株式会社ガイドデント

東京都渋谷区幡ヶ谷 1-34-14 宝ビル 3 階

TEL 03-5790-5260 / FAX 03-5790-5267

【事業内容】

- インプラント 10年保証、審美歯科治療 5年保証
- およびその他医療における保証業務
- 患者向けインプラント総合相談窓口業務
(グローバルインプラントサポート)
- 都民(市民)向け歯科関連フォーラム運営業務
- 広報支援業務
- R&D事業



インプラント治療の有用性と留意点 ～歯周病の専門家から～

申 基喆（しん きてつ）先生

明海大学歯学部付属明海大学病院、病院長

明海大学歯学部 口腔生物再生医工学講座 歯周病学分野 教授



歯を支える組織を破壊し、歯を失う原因となる歯周病は、国民の約8割が罹っているといわれています。歯周病学を専門とし、数々の研究と臨床経験を持つ申先生に、歯周病患者におけるインプラントの有用性と治療を受ける上で知っておくべきことを教えていただきます。

Q 歯周病にかかった患者さんでもインプラント治療は有用なのでしょうか。

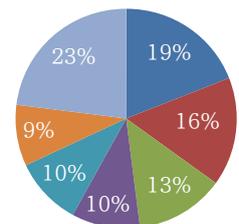
申 先生：歯科インプラント治療は、失った歯を補い、咀嚼（そしゃく）機能や快適な日常生活を回復できる優れた治療方法で、きちんと手入れすることで長期間に渡り機能を維持できることが研究でわかっています。成人において歯を失う原因のトップである歯周病においても、適切な歯周治療と徹底した術後の管理をおこなうことで、インプラント治療は有用と言えます。私が専門とする歯周病学においても、インプラント治療の有用性を享受していただくために様々な研究をおこなっています。しかしながら、歯周病がインプラントに与えるリスクを十分に把握し適切にコントロールできないと、トラブル発生の原因となり得ます。患者さんにも十分に説明し、治療への理解を高めて良好な医療者 - 患者間の協力体制を築くことが大切です。

Q 歯周病はインプラントにどのような影響を与えるのでしょうか。

申 先生：歯周病は歯周病原細菌の感染により歯ぐきが炎症を起こし、進行すると歯を支えていた骨（歯槽骨）が溶け、放置すると歯を失くす病気です。歯周病を放置したままインプラント治療をおこなうと、インプラント周辺の組織にも炎症が波及し、インプラントを支えることが出来なくなり、将来抜け落ちるといったトラブルに繋がります。これをインプラント周囲炎と呼びます。予防方法としては、術前に歯周病の原因となる細菌を可能な限り減らしてからインプラント治療をおこなうことです。また、インプラントの周辺が細菌に感染すると天然の歯よりも早いスピードで進行してしまうため、定期的なプロによるチェックと歯のクリーニングも欠かせません。

その他には噛み合わせにも注意が必要です。歯ぎしりが強かったり、噛み合わせが悪いと噛む力のバランスが崩れて局部的に過剰な負担がかかり、歯槽骨の破壊に繋がります。インプラントや人工歯が折れる・割れる原因となります。仮歯の段階で適正な顎の位置を模索し、噛む機能を十分に回復させるなどの慎重な対応が求められます。最終的な人工の歯をセットした後も噛み合わせを定期的にチェックする必要があります。

歯周病にかかった患者さんのインプラント治療では残っている天然の歯の罹患状況を把握し、術前・術後に必要な処置を考慮した治療計画が必要となります。



- インプラント歯周炎
- アバットメントのゆるみ (インプラントと人工歯をつなぐ支台)
- 初期撤去
- オクルーザルスクリーンの破折 (人工歯とアバットメントをつなぐネジ)
- 歯肉退縮
- アバットメントの破折 (スクリー含む)
- その他

資料：インプラント治療後の合併症
日本歯周病学会会員のインプラント治療に関するアンケート調査報告より

Q 申先生がお考えの今後のインプラント治療の展望を教えてください。



申 先生：インプラント治療後の評価基準として生存率（サバイバルレート）がよく用いられます。生存率とは一定期間において「口腔内にインプラントが残っている割合」を表します。もうひとつの基準として「適切に機能している割合」を示す成功率（サクセスレート）があります。この成功率の維持と向上が重要であり、歯科医師の目指すべきものだと思います。専門とする歯周病学の見地から、臨床研究や専門の学会での活動を通じて後続の育成に尽力すると同時に、インプラント治療の更なる安全性・確実性の実現に寄与したいと考えています。

インプラント治療を長期的な成功に導くための徹底したリスクコントロール

船越 栄次（ふなこし えいじ）先生

九州歯科大学臨床教授、船越歯科医院院長



歯周病の2大会である日本歯周病学会と日本臨床歯周病学会において認定を受け、歯周病のスペシャリストとして活躍される船越先生にインタビュー。歯周病に悩む患者さまに安心してインプラント治療を受けていただくためのアドバイスをいただきました。

Q 歯周病が歯を失う原因のトップですが、インプラント治療を受けるうえで注意すべきことはありますか。

船越先生：インプラント治療を行うとき、事前に歯周病を治療することがとても大切です。歯を失った患者さんの多くは歯周病を罹っており、口腔内の細菌の数が多い傾向にありますので、必ず歯周病が完治してからインプラント治療にとりかかるという手順を踏まなければいけません。人工歯であるインプラントは虫歯にはなりませんが、歯周病菌が原因で、インプラントの周囲が炎症を起こす「インプラント周囲炎」という病気になることもあります。歯周病がある状態のままインプラントを埋入すれば、治療後にインプラント周囲炎が起り、せっかく入れたインプラントを抜かなければならない場合もあります。まれに「早く噛めるようになりたい。早くインプラントを入れて欲しい。」と希望される患者さんがおられますが、インプラントは口腔内の状態を改善した後、最後に行うべき処置であることを十分に説明し、ご理解いただくようにしています。

Q 他にも注意すべき病気はあるのでしょうか。

船越先生：インプラント治療には歯周病だけでなく、糖尿病、骨粗鬆症などの全身疾患や、喫煙など生活習慣によるリスクもありますので、インプラント治療を行う歯科医師は、患者さんの全身疾患の有無や他科で受けている治療・投薬の状況、さらに生活習慣などについて把握しておかなくてはなりません。そのため、事前に患者さんと十分なコミュニケーションをとり、検査をしたうえで、インプラント手術までに必要な治療や、全体の治療にかかる期間、総費用などについてきちんと患者さんに説明します。これを怠って、すぐにインプラントを埋入すれば、治療は短期間で済みますが、後で大きな問題を生むのは必至です。ですので、たとえ患者さんが急ぐことを希望しても、将来の状態まで見据えて適切な診断をし、それに基づく手順を踏む決断をするのが、歯科医師としての責務だと考えます。



歯科衛生士による口腔ケア

Q 船越先生が目指す歯科治療とはどのようなものなのでしょうか。



船越先生：私は将来の歯の状態まで考え、生涯できるだけ歯を失う本数を減らせるような治療を心がけています。そのためには、例えば重度の歯周病の歯がある場合、抜歯を提案することもあります。矛盾しているようですが、歯周病はいつまでも1本の歯だけにとどまっているわけではなく、どんどん周囲に広がって他の歯もだめにしてしまいます。今1本を抜歯し歯周組織をきれいにすることで隣の歯を失わずに済むと判断したら、患者さんにそのことを伝え納得していただくようにしています。将来3本失うか、1本で済むか。患者さんが将来インプラント治療を希望されたときに、できるだけ少ない本数で患者さんの身体にも費用の面でも負担をかけずに噛む力を保てるようにする方法を考えるのです。歯科医師と患者さんがきちんと話し合い信頼関係を築きながら、生涯にわたって高いQOL（Quality of Life）を保てるプランをともに実行していくことが歯科医療のあり方として大切だと考え、最良の治療を提供できるよう尽力しています。

特集レポート：インプラントを長く快適に使うために ～ 定期メンテナンスと日常のケア ～

インプラントは適切なケアをおこなうことで、長く快適に使うことができます。歯科医院で受けるプロによるケアと、患者様ご自身でおこなう日常のお手入れで、大切なインプラントとお口の健康を守りましょう。

■ ケアが十分に出来ていないと、どんなことが起きる？

インプラント治療後の不具合で最も多いのが「インプラント周囲炎」です。日々の歯みがきやお手入れが不十分で歯垢や歯石が残っていると細菌の温床となってしまいます。細菌がインプラント周囲の歯ぐきやあごの骨などに広がると、インプラントを支えている骨が溶けてインプラントがグラグラしたり、抜け落ちてしまうことがあります。また、噛み合わせに歪みが生じると、インプラントや人工の歯に過剰な圧力がかかって折れる・割れるなどのトラブルの原因に繋がりますので注意が必要です。



歯周病菌に感染すると
インプラントがグラグラしたり、
抜け落ちてしまうことも・・・

■ 歯科医院で受けるプロによるケア

普段、患者さまご自身ではできないようなお手入れを定期的に歯科医院で受けて、インプラントとお口の環境を整えましょう。定期メンテナンスでは主に次のようなことをおこないます。気になることがあれば、積極的に相談してみましょう。受診間隔は良い状態が維持できているようなら年に2～3回程度が一般的ですが、歯周病のリスクがある場合などは頻度が高くなりますので、担当医の指示に従ってください。



定期メンテナンスで、
インプラントとお口全体の状態を確認

- インプラントと人工歯の状態のチェック
- 天然歯の虫歯のチェック
- 歯周病のチェック（歯ぐきや歯周ポケットのチェック）
- 噛み合わせのチェック
- 専用の器具を使った歯のクリーニング
- レントゲン又はC T撮影（必要な場合）

※一例です。歯科医院により内容が異なります。

■ 患者さまで出来る日常のお手入れのポイント

インプラント周囲炎の原因となる歯垢や歯石が付着しないよう、日常の歯みがきを丁寧におこなうことが重要です。特にインプラントと人工歯の境目などは歯垢や歯石が付きやすい所なので、意識してお手入れをしましょう。便利なケア製品も開発されていますので、歯みがきと併せて使うと効果的です。歯ぐきに腫れや違和感があったり、歯みがき中に出血があるような時は早目に歯科医院へ相談し、適切な処置を受けてください。



インプラントのお手入れに
効果的なケア製品
写真協力：サンスター株式会社

ケア製品の一例

【歯と歯の間の汚れを取るには】

デンタルフロス、歯間ブラシ（ワイヤーがコーティングされているタイプ）

【インプラントの周囲のお手入れには】

インプラント専用歯ブラシ、ワンタフトブラシ

【お口全体の殺菌には】

デンタルリンス